

熊切 拓

cyberbbn@gmail.com

## 要旨

本発表では、アラビア語チュニス方言の受動構文を取り上げた。この構文においては、自動詞も受動化することができ、また、受動のみならず、可能や再帰を表しうることから、その意味を事態全体の焦点化によって非人称的に事態そのものを述べるものと捉えた。そして、この構文の、①動作主を表せないこと、および②主語と一致しない3人称単数男性形の動詞が現れうることという2つの特徴が、事態そのものの焦点化に起因することを述べた。さらに物語テキストにおける受動構文が典型的には無生物主語の完了形のVS型であることを指摘し、その理由について、受動構文がVS型となるのは、VS型そのものが出来事を出来事として述べる現象文的な機能を持つためであり、無生物主語が多いのは、そのほうが有生物主語よりも事態を焦点化しやすいためであると論じた。

## 1. 本発表の目的

アラビア語チュニス方言の受動構文について、物語テキストを対象に発表者が行なった調査によると、主語 (S) が動詞 (V) の後に来るVS型の語順、動詞が完了形、主語が無生物となるものが多く見られた。(1)はその一例である。

- (1) thazzit                      it-fa:wla              thatt              it-ta:j  
 持ち上げるPASS.PERF.3SG.F   DEF-テーブル   置くPASS.PERF.3SG.M   DEF-お茶  
 「テーブルが運ばれました。お茶が置かれました」

本発表は、この言語の受動構文の意味を、事態全体の焦点化によって非人称的に事態を述べるということと捉え、この観点から上記のような受動構文の特徴について説明を試みる。

## 2. 導入

## 2.1. アラビア語チュニス方言

本発表の対象となるアラビア語チュニス方言は、北アフリカのチュニジア共和国の首都チュニスで話されているアラビア語方言の一種である。名詞のクラスは男性 (M) ・女性 (F) に分かれ、単数 (SG) と複数 (PL) の区別がある。動詞は未完了形 (IMPF) と完了形 (PERF) と2つの活用の系列があり、人称・数 (単数・複数) ・性 (ただし3人称単数のみ) によって活用する。

この言語の音韻についてまとめると、子音としては次の30種が認められる (IPAに準ずる)。/b, m, f, θ, ð, ð̣, t, ṭ, d, ḍ, n, s, ṣ, z, r, ṛ, l, ḷ, ʃ, ʒ, k, g, x, ɣ, q, h, ʕ, h, w, j/。母音は /i, a, u/ およびその長母音 /i:/, /a:/, /u:/ の6種である。

## 2.2. 資料

本発表では、チュニス方言話者から得られた資料と、チュニス方言によって記録されたテキストから引用した資料の2種を用いる。前者は、2018年8月にFarouk Herzi氏に行った聞き取り調査に基づく。後者のテキストは『アル・アルウィー物語集』(Al-ʕArwi:, ʕAbd-al-ʕazi:z (1989) *hika:ja:t al-ʕArwi:* Vol. I-IV. 2nd ed. Tunis: Al-Da:r Al-Tu:nisi:ja li-l-Naʕr) の第1巻である。テキストの朗読と文法事項の解釈についてはOuacel Krir氏(チュニス生まれの40代男性)に協力いただいた。なお、本発表での引用に際しては、そのページ数を訳文末の[]内に示した。

## 3. 受動形の形態

受動形は、動詞の完了形語幹に接頭辞 *tti-t* が付されることで派生される。次に *madd* 《～を差し出す, ～を伸ばす》の完了形と未完了形の例をあげる。

- (2) *madd* / *jmidd* > *tmadd* / *jitmadd*  
PERF.3SG.M IMPF.3SG.M PASS.PERF.3SG.M PASS.IMPF.3SG.M

次節で見るようにこうした派生形は受動のみを表すわけではないが、本発表では、この派生形を受動形と呼び、これを述語とする文を受動構文と呼ぶことにする。

## 4. 受動構文の意味

### 4.1. 他動詞の受動形による受動構文

他動詞の受動形による受動構文は、受動、受動の可能や義務、再帰という3種の意味を表す。動詞 *madd* / *jmidd* 《～を差し出す, ～を伸ばす》の受動形 *tmadd* / *jitmadd* のそれぞれの例をあげる。なお、再帰的な意味では《体を伸ばす, 横になる》という意味になる。

- (3) *tmaddit* is-sufra  
差し出すPASS.PERF.3SG.F DEF-皿SG.F

「皿が(食卓に)出された [122]」

- (4) *il-flu:s* ma:-*titmadd-ij*  
DEF-お金PL NEG-差し出すPASS.IMPF.3SG.F-NEG

「そのお金は与えられない／与えられるべきではない(名詞複数形 *flu:s* は単数女性あつかい)」

- (5) *kammil* l-aʕʃa: *tmadd* rqad  
終えるPERF.3SG.M DEF-夕食 差し出すPASS.PERF.3SG.M 寝るPERF.3SG.M

「彼は夕食を済ませた。横になった。寝た [33]」

一般的な傾向として、受動の意味を表す場合は、完了形が多く、可能の意味の場合は未完了形が多い。再帰的用法は限定されたいくつかの動詞のみに見られる。

受動構文においては他動詞の目的語が主語となるが、再帰的用法の場合の主語は他動詞の目的語には関連づけることはできない。

### 4.2. 自動詞の受動形による受動構文

自動詞も受動形をとりうる。その場合は、受動というよりも、ある事態の実現の可能性や必要性和

いった事態の実現性が表される。次の例は自動詞 *mja*: 《行く》の受動形によるものである。

- (6) *itʰ-tʰri:q*      *ha:ða:*    *jitmja:*      *fi:-h*      *bi-l-karʰba*  
DEF-道SG.M    この    行く PASS.IMPF.3SG.M    〜の中-GEN.3SG.M    〜で-DEF-自動車SG.F  
「この道は車で行かれる」

自動詞による受動の場合、主語のない受動構文となる。動詞は形式的に3人称単数男性形をとる。これはこの言語における非人称の形式である。文頭に現れた *itʰ-tʰri:q ha:ða:* 「この道」は、主語ではなく主題であり、評言内において、前置詞 *fi:-* に付された属格人称接尾辞として再言及されている。なお、この言語の主題化については熊切（2018）を参照されたい。

#### 4.3. 受動構文の意味

チュニス方言においては、接頭辞 *ti-t* によって派生される動詞形は、受動形（Gibson 2009: 568）もしくは受動・再帰形（Singer 1984: 364）と呼ばれてきた。しかしながら、特に自動詞を受動化した場合に明らかなように、この動詞形は受動・再帰のみを表すわけではない。エジプト方言にも同様な接頭辞が存在するが、ハッサン（2018: 45）は、この接頭辞によって派生された自動詞による構文を「動作主が削除され事象の対象が被る変化が焦点化される」中間構文とみなしている。本発表では、この先行研究の指摘を踏まえて、チュニス方言の受動構文の意味を、事態そのものの焦点化により、完了形の場合は非人称的な事態の発生を、未完了形の場合は非人称的な事態の実現性を述べるものと捉える。

すなわち、自動詞の受動形による未完了形受動構文についていえば、(6)で述べられているのは、非人称的な「車でこの道に行くこと」の実現性である。また他動詞の受動形未完了形の場合でも(4)は、受動というよりも、(6)と同じように非人称的な「そのお金を与えること」の実現性が問題になっており、「そのお金は与えることができない／与えるべきではない」と解釈することができる。そして、(1)や(3)の完了形による受動構文も、非人称的な「テーブルを運ぶ・お茶を置く」あるいは「皿を置く」という事態の発生を表していると考えることができる。

#### 5. 受動構文と事態の焦点化

この節では、この構文の2つの特徴が、前節で述べた受動構文の事態そのものの焦点化という観点から説明できることを示す。その特徴とは、①動作主を表せないこと、②主語と一致しない3人称単数男性形の動詞が現れうることである。

まず、受動構文においては、「〜によって」という形で動作主を表すことはできない。これは、受動構文においては、動作主を排除することによって、事態そのものが焦点化されているからだと考えられる。

また、他動詞の受動形による受動構文では、通常は動詞は主語に一致するが、主語が女性名詞や複数名詞であっても、動詞が3人称単数男性形をとりうる。(7)の受動構文では、主語の *iz-zatra* 「大麻」も前置詞の補語 *tu:nis* 「チュニス」も女性名詞であり、(7a)においては動詞は主語に一致して3人称単数女性形となっているが、(7b)のように3人称単数男性形となっても非文とならない。

- (7) a. **ma:-titba:ʃ-ʃ**                      **fi:-tu:nis**                      **iz-zatra**  
 NEG-売るPASS.IMPF.3SG.F-NEG    ~の中-チュニスSG.F    DEF-大麻SG.F  
 「チュニスで大麻は売られない／売ってはいけない」
- b. **ma:-jitba:ʃ-ʃ**                      **fi:-tu:nis**                      **iz-zatra**  
 NEG-売るPASS.IMPF.3SG.M-NEG    ~の中-チュニスSG.F    DEF-大麻SG.F  
 「(同上)」

同様に(8)では、主語である **il-krʰa:hib** (**karʰba** 《自動車》の複数形) は、(8a, b)のように複数もしくは単数女性あつかいとなるが、受動構文の場合は(8c)のように動詞が3人称単数男性形となってもよい。

- (8) a. **ma:-titba:ʃ-ʃ**                      **fi-l-jaman**                      **il-krʰa:hib**  
 NEG-売るPASS.IMPF.3SG.F-NEG    ~の中-DEF-イエメンSG.M    DEF-自動車PL  
 「イエメンで車は売られない／売ってはいけない」
- b. **ma:-jitba:ʃu:-ʃ**                      **fi-l-jaman**                      **il-krʰa:hib**  
 NEG-売るPASS.IMPF.3PL-NEG    ~の中-DEF-イエメンSG.M    DEF-自動車PL  
 「イエメンで車は売られない／売ってはいけない」
- c. **ma:-jitba:ʃ-ʃ**                      **fi-l-jaman**                      **il-krʰa:hib**  
 NEG-売るPASS.IMPF.3SG.M-NEG    ~の中-DEF-イエメンSG.M    DEF-自動車PL  
 「イエメンで車は売られない／売ってはいけない」

なお、主語が動詞の前に出て主題化した場合は、動詞が3人称単数男性形となると非文になる。(7)に対応する例をあげる。

- (9) a. **iz-zatra**                      **ma:-titba:ʃ-ʃ**                      **fi:-tu:nis**  
 DEF-大麻SG.F    NEG-売るPASS.IMPF.3SG.F-NEG    ~の中-チュニスSG.F  
 「大麻はチュニスで売られない／売ってはいけない」
- b. **\*iz-zatra**                      **ma:-jitba:ʃ-ʃ**                      **fi:-tu:nis**  
 DEF-大麻SG.F    NEG-売るPASS.IMPF.3SG.M-NEG    ~の中-チュニスSG.F

しかし、主語と前置詞補語の双方が主題化された場合は、3人称単数男性形の動詞も現れうる。(10)においては、主語の **iz-zatra** 「大麻」と前置詞の補語 **tu:nis** 「チュニス」が主題化されており、**tu:nis** は動詞句以下の評言内において、前置詞 **fi:-** に付された属格人称接尾辞として再言及されている。

- (10) a. **iz-zatra**                      **tu:nis**                      **ma:-titba:ʃ-ʃ**                      **fi:-ha:**  
 DEF-大麻SG.F    チュニスSG.F    NEG-売るPASS.IMPF.3SG.F-NEG    ~の中-GEN.3SG.F  
 「大麻はチュニスでは売られない／売ってはいけない」
- b. **iz-zatra**                      **tu:nis**                      **ma:-jitba:ʃ-ʃ**                      **fi:-ha:**  
 DEF-大麻SG.F    チュニスSG.F    NEG-売るPASS.IMPF.3SG.M-NEG    ~の中-GEN.3SG.F  
 「大麻はチュニスでは売られない／売ってはいけない」

このように受動構文においては、しばしば主語と一致しない3人称単数男性形動詞が現れうる。これ

は、他動詞の受動形による受動構文においては、受動ではなく事態そのものが述べられるため、形式的には主語であっても、そもそもの他動詞の目的語としての性質が保持されていると考えられる。すなわち、例えば(8)において述べられているのは「チュニスにおいて大麻が売られる」ということではなく、あくまでも「チュニスにおいて大麻を売る」ということになる。そのために主語の動詞に対する影響力が弱まり、この言語における非人称の形式である動詞3人称単数男性形が現れやすくなっているといえよう。

## 6. 物語テキストにおける受動構文

本節では、物語テキストにおける受動構文の特徴を示す。

まず、受動構文とVS語順の関係について述べる。動詞文について動詞 (V) とその主語 (S) との関係を見ると、そもそもSの現れないV型、VS型、主題化された主語を持つSV型の3つの型が存在する。本発表で取り上げた例では、V型は(5)、VS型は(3)、主題化された主語を持つSV型は(4)に該当する。

『アル・アルウィー物語集』第1巻に収められた物語テキストのうち3つ(約14,000語)を対象に受動構文を調べたところ、受動構文は動詞文2034例のうち、35例であった。この35例の語順は、VS型が26例、V型が7例、SV型が2例であった。VS型は動詞文全体だと1割程度を占めるに過ぎないから、受動構文におけるVS型の優位は特徴的であるといえる。なお、V型の場合はすべてが再帰的な用法であった。

次に、VS型の受動構文の主語を見ると、26例のうち、24例が無生物であった。また、動詞形は、26例のうち20例が完了形であった。未完了形の7例のうち6例は会話の中に現れたものである。

この調査から、物語テキストにおける受動構文は、典型的には(11)のような、無生物主語の完了形のVS型であると特徴づけることができよう。

- (11) thazzit                      it<sup>h</sup>-tʰa:wla                      tha<sup>h</sup>tʰ                      it-ta:j                      (= (1))  
持ち上げるPASS.PERF.3SG.F   DEF-テーブル   置くPASS.PERF.3SG.M DEF-お茶  
「テーブルが運ばれました。お茶が置かれました [114]」

そこで前述の受動構文の意味が、物語テキストにおけるこの特徴とどのように関係するかを次に論ずる。

### 6.1. VS型と受動構文

まず、物語テキストにおけるVS型の特徴をまとめる。前節で述べたように、VS型は物語テキストにおける動詞文全体の約1割にあたる199例であった。VS型は自動詞が151例と多い(3a:《来る》は対格人称接尾辞が接尾されると《～のところに来る》という意味になるため他動詞に分類したが、これも加えるとさらに多くなる)。また、完了形も169例とほとんどを占めている。主語は無生物が113例と6割程度となり、VS型の受動構文ほど多くはないものの、無生物主語の完了形のVS型という受動構文は、VS型の典型的な例とみなすことができる。

次に、VS型の機能について検討する。VS型にはさまざまな用法があるが、受動構文と関連が深いと考えられるのは、新しい場面を導入する時に用いられるVS型である。

- (12) xalla:t-ha:                      w-mja:t                      qaʃdit                      ʔa:h  
 放置するPERF.3SG.F-ACC.3SG.F    そして-行く PERF.3SG.F    座るPERF.3SG.F    落ちるPERF.3SG.M  
 Hi:l                      ʒa:                      r-rʔa:ʒil  
 DEF-夜SG.M    来るPERF.3SG.M    DEF-男SG.M  
 「彼女はそれ（かご、女性名詞）を放置しました。そして、立ち去って座りました。日が暮れました。その男がやってきました [12]」

- (13) zha:t                      w-ʔahkit                      w-qa:mit                      ʒibdit  
 喜ぶPERF.3SG.F    そして-笑う PERF.3SG.F    そして-立つPERF.3SG.F    取り出すPERF.3SG.F  
 id-darbu:ka    w-ma:-ka:nit                      tbatʔfil                      mi-l-yna:                      illa:  
 DEF-太鼓    そして-NEG-(過去表示)    止めるIMPF.3SG.F    ~から-DEF-歌    ~以外  
 baʃd-kulla:t-li:l                      minyudwi:ka    ʒzaq                      il-ba:b                      hallit  
 後-深夜-夜                      翌日                      鳴るPERF.3SG.M    DEF-扉SG.M    開けるPERF.3SG.F  
 「彼女は喜びました。そして笑いました。そして立ち上がりました。太鼓を引っ張り出しました。そして、夜更けになるまで、歌を止めませんでした。翌朝、扉がドンと鳴りました。彼女は開けました [19]」

アラビア語におけるVS型の機能については、SV型が属性叙述に用いられるのに対して、VS型は出来事叙述に用いられるという見解が提出されている (Holes 1995: 208-209)。しかしながら、それだけでは、VS型が場面の導入に用いられる説明にはならず、また、チュニス方言にはSV型でも出来事叙述となる場合がある。次の (14) を (13) と比較されたい。

- (14) hu:wa    hakka:ja                      w-l-ba:b                      ʒzaq  
 彼    そのような    そして-DEF-扉SG.M    鳴るPERF.3SG.M  
 「彼がそうしていると、扉がドンと鳴った [124]」

場面の導入としての出来事叙述を考える上で参考になるのが、日本語の「富士山が見えるよ」構文である。主題を持たないこの構文は、出来事をそのまま述べる現象文であり、「文章・談話の中では、話題の導入や転換に使われる」という (野田 1996: 84-95)。

新しい場面の導入に用いられる(12)(13)のようなVS型もやはり主題を持たない文であり、したがって、VS型もこの「富士山が見えるよ」構文と同様な機能を持つと仮定したい。すなわち、VS型は、「富士山が見えるよ」構文と同じく、出来事を出来事としてそのまま述べる文であり、そのような意味で出来事叙述に関係している。

VS型がこのような現象文的な出来事叙述となるのは、チュニス方言においては、動詞が前に出ることによって事態が焦点化されるためだと考えられる。いっぽう、受動構文は動詞形によって事態を焦点化する構文であるが、そのように事態を焦点化する構文は、語順においても事態を焦点化するVS型を取りやすいのだといえよう。事実、VS型の受動構文の(11)も、「黒い商人」という登場人物が、チェスの試合を提案するという新しい場面の導入において用いられている。次におおよその文脈を記し、受動構文を下線によって示す。

- (14) 黒い商人は商人を家に連れていき、王のような豪華な食事で彼をもてなしたのでした。（そして食事が済んで）テーブルが運ばれました。お茶が置かれました。2人は飲み、くつろぎました。そこで黒い商人が商人に言いました。「チェスはされますかな？」

## 6.2. 無生物主語と受動構文

VS型の受動構文に無生物主語が多く見られるのも、この構文が事態そのものを焦点化するという点から説明できる。すなわち、能動的な有生物を含む複雑な事態よりも、無生物のみ含む事態のほうが、事態を全体として焦点化しやすいためであると考えられる。

## 7. まとめ

本発表では、チュニス方言の受動構文を取り上げ、この構文の意味を、事態全体の焦点化によって非人称的に事態そのものを述べるものと捉えた。そして、物語テキストにおける受動構文が典型的には無生物主語の完了形のVS型であることを指摘し、これを受動構文の意味に関連づけて説明した。

## 略号

ACC:対格人称接尾辞 DEF:定冠詞 F: 女性 GEN:属格人称接尾辞 IMPF: 未完了形 M:男性  
NEG:否定辞もしくは否定に關与する要素 PASS: 受動形 PERF: 完了形 PL: 複数 S: 主語  
SG: 単数 V: 動詞 1, 2, 3: 1人称, 2人称, 3人称 -: 形態素境界

## 参考文献

- Gibson, Maik (2009) Tunis Arabic. In: Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich and Andrzej Zaborski (eds.) (2009) Vol. IV. 563-571.  
ハッサン エバ (2018) 「アラビア語における中間構文」『東京大学言語学論集』第40号, 39-49. 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室.  
Holes, Clive (1995) *Modern Arabic, Structures, functions and Varieties*. London/New York: Longman.  
熊切拓 (2018) 「アラビア語チュニス方言における主題化」『東京大学言語学論集』第40号, 119-133. 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室.  
野田尚志 (1996) 『新日本語文法選書1. 「は」と「が」』くろしお出版.  
Singer, Hans-Rudolf. (1984) *Grammatik der Arabischen Mundart der Medina von Tunis*. Berlin/New York: Walter de Gruyter.  
Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich and Andrzej Zaborski (eds.) (2009) *Encyclopedia of Arabic Language and Linguistics*, Vol. IV. Leiden/Boston: Brill.